迤克遷 南己中

鄉在界學生界等等亦者國有專欄 、迎 抖稿。相 村 村 村 並 多 載 富 有 與 趣 之 談 片 以 期 從 事 改 良 久 數者為所發許茲擬 自 陽 展 行 商 水 師範生的良友國音新義和教本教養 價 最近 目 務 全字母 零年月 本售 本 大大現 療 大木 現 療 大 本 洋洋洋 選 洋 京 出版 股足**五**百五十萬元 總額 一千 武 元 高埠均有代理機關 别 却 六三五 元元毛 啓 二升 一五 11 書 **公外埠巡日寄** 全年大洋七元六毛 年年大洋四元 局 書 (13, 2)話房爛事職大腳南七縵務改理人 全年大洋十三元四毛 半年大洋七元 毎月大洋一元二 局井胡昕業院現九胡同於律推己 **製女子之性的知** ム歌美泰島 掛 二電間外設之去 爲多數既可備爲養老數 在大洋一元以上即可整存支息 整存支息 整存支息 自 一元二六 八一九九 別住存金二 濟以註 二二七四人奏業科二二七八人田納科二 年收日日收 號二十四百七千三局商訊電 九聚收收價 析三銀銀銀 養五八一 告 一)定期存款 整存整付零存整付 五九五九號掛報電 人之用且可節省洋費加 (所行發分) 不算觀別碼美 存飲 街萊蓬界日津天 0= 奉取己回家 △△△ △ △ 6電養地 特 語報業 別 南挂牌 頒 司號間 址 點 三一自北三 九 上京事情 三一午西續照 十交號 二八時 共 巷 (三) 狭電 四歲以 (二)車上補票 東四二 日利地)四等客票 旅客欲坐頭 定座加资票各 價票十二歲以 票價之年 順事鄉持有 **威之孩童精学** 等票價為三 上孩童購金 費四歲至十二 下小旗旗其品 四四〇六 张此項定庫 可車票及議事 上楠栗按照而

厅無行— 客不**免**手

F 0 0 上上策至其共同日標。則 機傳利用孫森韓者の 衛子川縣之中の審計院 · 横具有干炒財 會心。即蘇老

0 陽壓五月三十人

170 電影

推演時間望編書

是之人通り則答應就學近自己之職中提入已新所有 是之人通り則答應就學近自己之職中提入已新所 務物院長於格の嚴加制限の輔以杜絕野心家之活動 所用法案以已由審計院楊鵬長擬具條文十六條の地 用上。契為討論後の即發变失制局獲換後赴。其由 是以實格一條の規定下積人員。不得被任の即(一 是以實格一條の規定下積人員。不得被任の即(一 是以實格一條の規定下積人員。不得被任の即(一 是以實格一條の規定下積人員。不得被任の即(一 是以實格一條の規定下積人員。不得被任の即(一 是以實格一條の規定下積人員。不得被任。如 老孫與人所交之質賣也。 集夏郡門別於下克

▲彈劾案作用比得手槍否

《四方面圖會器子對於政府。 仍不肯放於。 內長程克根
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
以口實。各議員正好執為把柄。於是彈動查辦之將随之而
他否打倒光大總長。如其不然。恐其板槍伎俑。殆不如連
能否打倒光大總長。如其不然。恐其板槍伎俑。殆不如連
他否打倒光大總長。如其不然。恐其板槍伎俑。殆不如連
他否打倒光大總長。如其不然。恐其板槍伎俑。殆不如連

被 東 現 形 田 之 子 學 相 形 日 四日學費果等得的外外 用日學費果等得的外外 用日學生號●改名學務總裁之稅。似己大致决定。但體則 學學之落職。重行炭復。作為此項處與之情形。復何從 院形監崇。經●自亦必獨。今日財政困窮之情形。復何從 院形監崇。經●自亦必獨。今日財政困窮之情形。復何從 院形監崇。經●自亦必獨。今日財政困窮之情形。復何從 院形監崇。經●自亦必獨。今日財政困窮之情形。復何從 院形監崇。至日政政国。

中代交涉上果有機構了之字子 一个代文沙上果有機構了之字子 一、中代交涉二次程牒送出後○迄今未見等覆○以致機構 一、中代交涉二次程牒送出後○迄今未見等覆○以致機構 一、中代交涉二次程牒送出後○迄今未見等覆○以致機構 一、中代交涉一或可機積談判○出為權稅政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前政府限定之步驟○ 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前發表了 一、城市的○再向次二國談判○因加馬聯出前發表了 一、政府等題。 一、城市的○第百具體之規定。 「日本等。 日本等。 日本等。

電景副のの

图。官实下 且己

0 叨一有午

時 之可

豐台案

間省疆 沙縣知事 吏昨日來電 スロ宗教上之關係の 人所注彙、故々改加 (三十日)星期五關係の

先記大過

桂

省 陸 沈

H

評

崎嶇。保持原默。世間竟有 理由。以拒絕香人之詩者之 情願與督辦坐辦共同担任此 公人而久之。所謂督辦坐辦 與胎中之一分子而己。 以而久之。所謂督辦坐辦 人之詩求也

可辦逐 選者而至 0 別 十必版 年振 0 不修 四 四 不 1年の成成群へ 中の成成群へ 特 特 登 数 大 之 、 馬為車 路言者 祗吾 類 好人 頓 任被o **北**其 **股**

版の不可翻非資品 原子之臭汗の割す 原子之臭汗の割す 原子之臭汗の割す 而00捐 彼便油0 位人之胃口。實具有 他不至乾燥脹關而死 個灰等等塞入喉嘛。

時無費 ili 程體發 女新子 三十個光

大兄弟大愛

三十個民

們官都 城〇 國及奪中 方民海

有役小八二 關查 0 工 即實 十 6 經俄 二0時 時時於出故局 10 分一四國 一角と至い谷の上の勢並往三 狀改 **『星版 午下項即自為最不意』 孔卓** 小朝食後午大子政盛 家施。東 O以

育及一二小德府督提以申海上還

一權點至日 不省商新 ○革時四 容所 目目 經一食 六普商及 養額 施命間 ○ 分注 | | | | |

包五鋪時通業者役の其事。漁列目人人 鋪 茶 為替 工 见 の 工 保 起 悉 業 四 の 人人 株 種館 止 業 作 定 其 作 護 。 依 之 項 而 人人 此 包 咖 。 之 時 券 服 時 券 全 情 概 。 其

中國庚子公數百年後所收入之 中國庚子公數百年後所收入之 中國庚子公數百年後所收入之 中國庚子公數百年後 中國東子小與東國 中國東子公數百年

横爾耳。下

花特及養數 干 歌政大藝體 餐 大 石 数 受 碎

院及石碑。成者 紀郷○今晨講面 見事○今晨講面

特伦下

0

耐使之衆議員行政和議 を明身分の毎日各報時 を明身分の毎日各報時 を開身分の毎日各報時 を開身分の毎日各報時 を開発議員彭漢道 を開発を表して、 を開発を表して、 を開発を表して、 を明身分の毎日を報時 を明身分の毎日を報時 を明身分の毎日を報時 を明身分の毎日を報時 を明身分の毎日を報時

助案此完獨陰皆六美華案の外委立道待日國盛

○ 報 政得 金。 時保 之 約利 電 辦 取一 州 冤 電海 建起 债合 息 均 行 **職氏有執官員自** 逐。配。 東蒙 政

主車支問 閩

四曾之情形 具在議場大搗亂 是在議場大搗亂 一名狀。議長縣法制止。建 行戴帽摄長而去云。

 5 對準下條 請答無議立 財務異院五

編此設計の電

。 怕月合國此信籠七人

一一一出西 下星期 所有從前未 所有從前未 下星期 用

参衆兩

が開州人の ・(未完) の開州人の ・(未完)

第二條即接近 四個 附表直銘及即第一條間官投訓官提訓官提訓官提訓官號各條長 四個 開報 學 基 四 〇〇日

自

與泥菩薩騙異 中小時預備之成績如是如是 0

法大女生楊子烈後補一節。

选經本計報告·惟此案內容 ○當局固守之彌密○外間獨

百0万領數角色0往往長莠 寶囊廳0因產白語新戲0原

法

4大學生接助同風

A.規訂管理規則十餘

及白目廣告 注閱國母標本位素俱全應 用到精製各色點心直來上 高級迎 官職各界請賣試

而令都〇此有退解回籍之高 既之詞〇久未可深信 o 嫌最

與之詞 0 久未可深信

不養の

・敗傷風化之弊で脈

御枝麻

帕姆

一年安萬金山帝247日 中 是香港墨斯泰亚原建筑水水水平 是香港墨斯泰亚家医迪居人丽子 等城市城市城市城市大阪市

腊

條。昨己剧

印白

0

一、出

pla.

十七

想務款苦懷實女

几記

の能散解表。左公入内便将自

農 村小學眞相之

致雖屬平常の而動譽可取の此類數員の任教育發達之縣較脈。或於一兒最品性行為。能隨時留實訓迪。或於授訓管 多〇即教育不聲達之縣。亦不至完全爲宵〇無庸一一周果 約貫之均不失為良好教員O即無愧為良好學校o

多0 商民維密區重 0 至今 痛苦未忘 0 此次擬發行之直隸若銀行 0 錄元 個元票斯縣行程 0 那个又來及是最直隸若長 0 万个又來及

行前次每人匪淺〇今又設法 銀行之銀元開元票一概 · 人非木石 O 登能任人 · 未商己自行互相傳知

▼十二時始行息減云○ 神▼十二時始行息減云○ 神▼本▼本「本< 不戒於火。致觀聽為災口 五分○西什庫法國天主教常 四什庫 教堂山 (二十八日) 上午十時

髮 恐 在某 孫 之 某 鄉 。

株清深の見量一一工坐の桌置費○目直視の身不動主人出見の寒喧暴の引導参観教室○見桌荷極整齊久-見主人出の但開桌椅購人旅嘈擬不可辨の腰宇、某派之某郷の参観小學の入門投刺の校使引導入趣

行亦無○並介區勿任私自會除據情轉咨直隸省長轉修該

11丁華星ル賽職批呈悉の査の實為及便の懸乞總監験察

起邸の所答願為閃操機外間 三就の(一)、陳在平市管 三就の(一)、陳在平市管 告發の(一)。伊在平市管 告發の(二)。伊在平市管 告發の(二)。伊在平市管 一、近来軍機等率方軍領之嫌疑 (三)陳近掌管某別助棄樂 有服目有不實不靈之處。彼 人指控の三郡未知數是《但 人間個者。順有觀實類。平 日物望亦不愿。甚望所仰之 不確也。

常師總而會○早為中報直隸 京師總而會○早為中報直隸 ○因直隸省銀行○擬在北京 安門外什刹鄉臨時餐業施 △現己 0

之學生会業。魏某○至於 大為恐慌。乃派遣平日於 大為恐慌。乃派遣平日於

之任限の

後經該班風學 O 華紀香田 和尚強硬自認為一班代表 展波 · 至是始告結束 · 中間 與間校鄉 · 魏某亦作同樣宜 與間校鄉 · 魏某亦作同樣宜 少數職員の爲保持期位町。 風波の歪是始告結束の 再在任何處の以代表名 Ro始自 餐以晚不 0 0

之脱の昨有被装機関係 前某錢行協雞陳屬生の **△監視之原因有三** 閉戶讀書 ○ 久己不朋 街頭の一日都暮の進前入約翰家の良久給出。全尾随其後室中其必有遠法之果の於是每至西陽西下の余部剛獨撒乃 際車の放入皆見之。約翰平 無薦聯 〇 余立銀行之 〇來必事夜〇余知所聞老母 月の名約翰の子然 ○人見其果止跪秘○ 至〇然至今仍未見其來〇 無人知之。此屋荒府已久。 身。

耐者。為達司 0 煮此二聚在此彩 ·游○近日常一老爺○出入其間

無影響の余立銀行之肺角の遊鵰選司小局の百葉窗緊閉の 無行人の電燈亦踏漢無光。所労人家の均閉日健留の寂 無行人の電燈亦踏漢無光。所労人家の均閉日健留の寂 の行便叙街の重一機排之前の駐足向波密注視已明権門而 **密無報息の選出素巾鋪地の貼** 出刺調行長。延入獲待室の ○ 余突有所悟 o 即行歸家 o

探邏堆雪の玉壁樗盛開の一般冷香の沁人肺臓。精神常之一衝便與起孝左右暫坐の儿上供一古冤概の中補勤業権一校の飲坐の並不依例上茶只見賣最於梅花樹下の安丁一張大理右側子の突飛為無謂之周旋耳の於是換了外衣の與永正能轉借 孝笑道 ○乗兄雅人 ○饒有深致 ○返此物事 ○曹雲品茶而散麼 植水炭一俊。葵麟一把の衛泉一號の另有兩

雖欲滴 。 再仰賴

小几。明觀軟皮鼓椅〇 o旋到左府 o 延入傾息的

群的他前來 0 待我常面自媒。看他環敢推印際 0 永正傾命 0 頃間之事具表說道 0 跑参性情 0 果然 執 0 無怪持下傾他 0 依原媒是斯縣取消的 0 特正笑道 0 州 见遊戲 0 且到被時再議

0

新学水腰樹命候骨光生服孫 旅京以來活人無算鄙人騰素 旅京以來活人無算鄙人騰素

介 職 業

一一一年前在五十字以为書師日文大学一角で以上音を以入書師日文大学二角へ三)百字以入書師日文大学二角へ三)百字以上音師で大学二角へ三)百字以二月字は以上音師で大学一角へ「一字」

沒之隔室。即在銀行對面。

自言為機師O茅其服務何廠O則

及改其都右の知侏儒居此已三

的輸賃居時の曾云家屬不久即

[用家具の約極備随。來時運以

日深居簡出。不恒典市人晉後

此鄉行設立之用意○蓋備衆勢工候權之用○耐理司日夕出

個養告。 0

塞西利夫人坐在炒發上時一揮如底短衫也是對目的

她在西拉底教科書裏己經很留心 地研究過女性

如罪乞之中、突現一窩翁〇

鮮衣排服の足以脾脱一切っ推

法國通郎邦著

淵園地

寒光試釋品

英國阿烈斯與克拉特阿柯原著

第五章

局勢變丁

什麼時候見賴的造物主也不會害怕的。她是那樣的一個女使我機做的灰身裝。一雙華美的鞋。繩艇街(處譯那聽街髮!」上了粉末。捲了起來。又分成條紋的。後輕潔很和臉。也注意對嘴上所現出不滿意的條紋。很留意收拾的題 人の把計算簿和上帝各照她們底勢力而稱粹的。 利夫人的口恤注 至於她 0 **蝗是很爾心赛看彷彿商家清服成那樣對塞尚** 意到影瘦而尖長的身軀。已麥驅的美麗的

在茜拉那裏雕見獨字冷〇是不是〇」 天早晨我底弟弟一小叔一 長我底弟弟 (小叔——譯者) 到這夏來聽說您在下午寒雨和夫人把短衫的摺繳很護慎地放開 0 閉道 0 「昨

(未完)

九八

三十回民事中》

五四三八 羌日 年年 章 競 公公公公 金 横成板板板框翼

五四十八六

冠

三十國比 ▲東站山京 是

公府永宜官 ▲西站出宣

77141 交流口前大街馬车市大街馬车中十五元合者請賣排十大開前 城市大街馬车市大街馬车

字義。然而對於 遊底鄰居就有一種厲害而且很緊的規則管的一個人 0 爐立劃斷定了說塞酱利夫人是尊敬上帝十號的

者她不讓她行該善了。

這種人以前温芮薩過見過 0 那是爐以前最討脈最疑惑

百

□ を大き店均有代售 ・ 機能順。京華教育用品及、 ・ 機能順。京華教育用品及、 ・ の機能順。京華教育用品及、 ・ の機能が表現した。 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のでででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででは、 ・ のででで